『國民新報』1940年8月11日

[主張]　町洞聯盟常會

　のにおけるはにましいものがあるのであるが、そのもなるの一つが、毎月一日日のであることである。がこの日の一つのにまつて、、、、、合をなすことは、にと、のためのである。

　ところが、このもつときなければならないことがある。それは、にはずがすることだ。そのにいて、をもつたがしてこそのがせられるべきである。しかるにのをれば、、、にをたせてをさせるものがいやうであり、しかも、かゝるすべからざるをもつたものはにも、からものものにいやうである。かゝることはに等のとなるのみならず一にをぼすことがなくない。にであり、ならば、てして、にし、のにをるべきである。が、かの、またはのにも、、小をにさねばならぬむをざるにあるとすればだ。

　次に、、、などのためののんどはのにつてゐる。んとかして、の、を月一してはどんなものだらうか。月一日がののならば月十五日あたりをのとして、はのはないにあるだらうから、などのをんでし、もつとけたはせや、の一つかせてもいとふし、、などせたらだらうとふ。の一をはしたいものである。

　かやうにのととが月一まるとすれば、まることだけですでにしたがあるだ。でよ、でよ、はらず行してしいものだ。